

○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

【結果について】

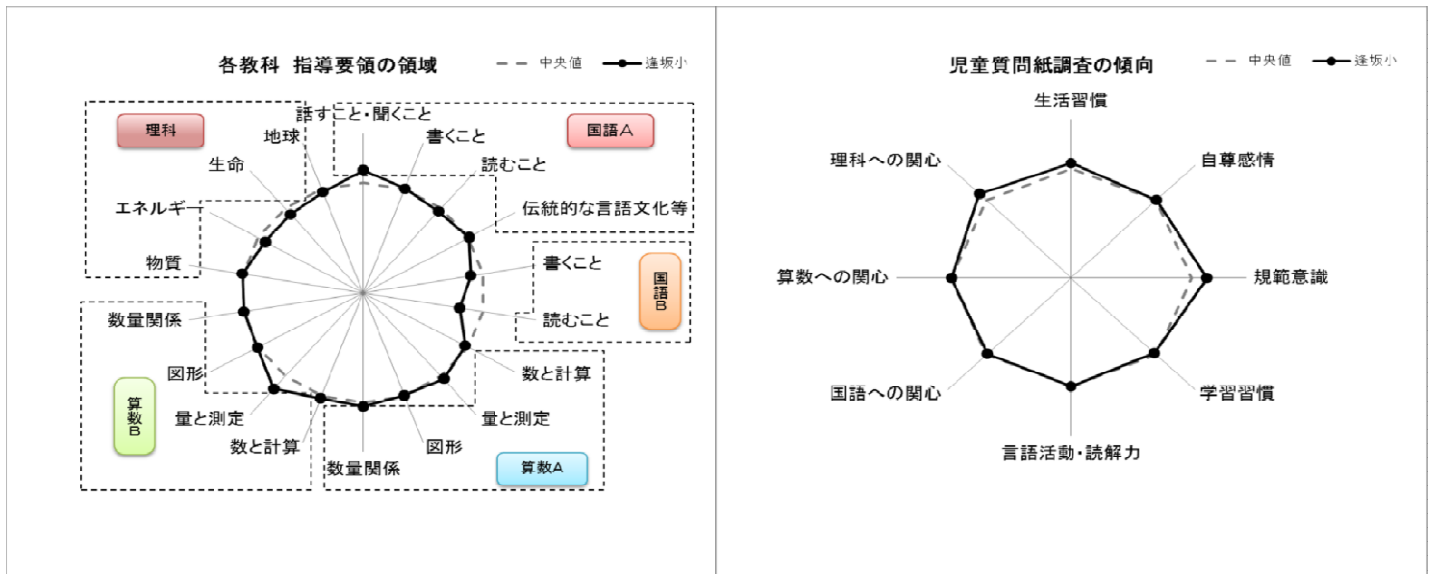
《概要》

国語では、基礎的・基本的な知識・技能をみるA問題は良好な結果でしたが、知識・技能を活用する力をみるB問題にやや課題が見られました。算数はA問題、B問題ともに良好な結果でした。理科は平均的な結果が出ています。本校の全体的な傾向として、全国の結果とあまり変わらない傾向を示しています。つまり、全国の結果で苦手とする領域の問題は、本校でも正答率が低く、同じように苦手としている結果となっています。全体を通して、いくつかの条件に合わせて書く力、理由をわかりやすく説明する力に弱さが見られます。

《強み・弱み》

レーダーチャートから、算数は全体的に本校の強みという結果が出ています。これは、算数の授業で行っている復習タイムや少人数指導、家庭学習などの成果だと考えられます。国語においては、「話すこと・聞くこと」は強みと出ていますが、「書くこと」「読むこと」が弱みとなっています。理科はほぼ平均的な結果でしたが、「書くこと」を苦手とする姿が理科でも見られました。質問紙では、規範意識・生活習慣・理科への関心が強みとなって出ています。大きな弱みはありませんが、教科への関心はもちろん、各家庭と協力し、自尊感情、学習習慣などをさらに高めていきます。

◇強み・弱みレーダーチャート◇ ※本校の傾向を見るためのものであり、学校ごとに基準が異なるため、他校と比較できるものではありません。



※グラフは全国平均正答率と本校平均正答率のポイント差に基づいて作成しました。点線はポイント差の中央値を表しています。点線より外側の場合は強み（成果が現れている項目）、内側の場合は弱み（改善を要する項目）と捉えることができます。

【指導の充実に向けて】

- ◇どの教科においても、低学年からの積み重ねを大切にします。
- ◇協同的な学びを推進し、全ての児童がともに学び合う中で学習意欲を高め、自らの考えを深める力をつける授業を目指します。
- ◇基礎・基本の定着を図るため、これまでの取り組みを継続、発展させていきます。
 - 算数の授業の最初に復習タイム
 - 漢字学習の工夫（間違いやすさの意識化、既習漢字の積極的な使用、主語を意識した文作りなど）
- ◇学習内容の習熟のため、家庭学習を大事にしています。
- ◇テーマや字数、使用する言葉など、指定された条件に基づいた文を書く活動を進めます。（短作文、学習の振り返りなど）
- ◇自尊感情を高め、何事にも主体的に取り組む力を伸ばすため、授業や様々な活動の中で児童一人ひとりに成就感を持たせるとともに、タイミングの良い称賛の声かけを行います。また、友だちからのプラス評価の機会をつくります。